

【鉢叩】はちたたき

空也上人(903-972)は平安中期の僧。「くうや」とも「こうや」とも読みます。

幼いときより優婆塞として諸国を歩き、二十歳を過ぎて尾張国分寺で得度し空也と自称します。貴族文化華やかなりし時代、三十五歳で京に上り乞食して貧困・病に苦しむ人々の救済に努め市の聖・阿弥陀聖と称されました。四十五歳で延暦寺にて修行、受戒し光勝の名を得ます。応和三年(963)鴨川の東岸に仏殿を建てますが、これが後の西光院(六波羅蜜時)となるのです。

空也の命日は天禄三年九月十一日ですが、康保二年十一月十三日京を出て東国奥州に赴くに当たり、この日を忌日とせよという彼の言葉により空也忌は今日十一月十三日に営まれています。

空也上人の弟子に平定盛という元獵師がいました。彼は空也が可愛がっていた鹿を殺してしまい、悔い改め空也に帰依した人です。空也はその鹿の角を杖にさし、皮を腰に着けたといひます。六波羅蜜寺蔵の空也上人像(重要文化財 康勝作 鎌倉時代)はその姿を今に伝えています。

この平定盛を祖とする八家の僧が空也堂(光勝寺)に住み、空也踊念仏と呼ばれる念仏踊を行いました。

陰曆十一月十三日の空也忌から大晦日までの四十八日間の夜、瓢・鉄鉢・鉦などを打ち鳴らし踊りながら念仏和賛を唱え、勸進に民家を回ったのです。

この僧たちは民衆から鉢叩(はちたたき)と呼ばれていました。彼らは半僧半俗、有髪妻帯であったといひます。その姿は『七十一番職人歌合』に描かれています。

現在踊念仏は十一月の第二日曜日に行うようです。空也堂は現在の京都市中京区蛸薬師通油小路にあります。

- ・鉢たたき昼は浮世の茶筌売 各務支考
- ・治まれる 都の春の鉢叩 叩き連れたるひと節のを 茶筌召せと囃さん この茶筌召せと囃さん
狂言『鉢叩』より

興味深いことに、空也堂の念仏僧たちは茶筌を製作し、歳末に売りに歩いたといひます。

上記の狂言や俳句はその様子を彷彿とさせてくれます。彼らの扮装・口上を真似て江戸でも茶筌売りは出現したようです。

念仏僧による茶筌売りは巷に茶筌の需要が広まった様子を想像させてくれます。